

皆さまからの声

こうよう会は、利用者の方だけでなくご家族やボランティアの方々にも支えられています。今回は、私たちの活動に関わってくださっているお二人の方からの声をご紹介します。



(ジャンプ利用者のご家族) 藤田 日出夫 様

『居場所について』

「只今」と玄関のドアが開くと同時に明るい声が、家の中に飛び込んでくる。「やー元気だったか」と声を掛けながら、ホッとした気持ちが身体を包む瞬間です。

親亡き後の娘の自立については、考えながらも具体的な行動には至りませんでした。たまたま、ジャンプからグループホームの紹介を頂き、入居させていただきました。当時、ジャンプの仲間が入居されていたことも、娘にとって大きなキッカケとなった様です。

その後、永年住み慣れた横浜での生活も、高齢の夫婦二人だけでは困難とも思われ、千葉県市原市に嫁いでいる長女夫婦宅を建て替え、同居することにしました。

転居に伴い、娘の遠隔地帰宅支援をどうすべきかについて、こうよう会の関係グループの皆さんが中心となり、移動支援事業者も含め協議を重ね、組織に捉われず、職務を超え、娘の立場に立っての検討をして頂きました。関係者のご努力により今や娘は、横浜・市原間を何事もなく往復しております。

そして、何よりもこうよう会の皆様を始め、多くの支援関係者が、利用者を障がい者視せず、一人の人間として、本人にとって必要な支援は何か！を常にお考え頂き、且実行されていることに、感謝の念にたえません。娘も皆様の様々のご支援に、肌で幸せを感じているようです。

お陰様で、娘の「只今！」の確かな声は、娘にとっての、新しい居場所が見つかった様です。

(ジャンプ ボランティア職員) 角井 斐子 様

ジャンプのボランティアをさせて頂き、早くも 10 年になります。こんなにも長く続くとは夢にも思いませんでした。

私も年齢を重ね、ボランティアの役割について、考え方が少しずつ変化してきたように感じます。

始めた頃は少し若かったので、手早く作業をすることに力点を置いていました。しかし、最近は作業はもちろんですが、利用者さんとの様々な触れ合い、どちらかというところ傾聴の姿勢も大切なことだと思えるようになりました。趣味や好きな芸能人の事など、若い人達の話の話を聞いて新鮮な気分になります。時には日常の楽しい話やグチの聞き役にもなります。



一方、私にとってボランティア活動は、心身の活性化と元気の源になっています。たまに作業手順を忘れ、利用者さんに訊きますが、今後も活動が、ジャンプの皆さんと私の双方にとって、活力になれば嬉しく思います。